

# 1. 水中観察(歩き型)

バディと一緒に川の中を歩きながら、箱メガネを使って水中を観察します。魚や水生昆虫などの生き物を見つけたら、網で採取して観察してみましょう。

## ■目的

- ①陸上からは見ることのできない川の中の様子を観察する。
- ②川に生息する生き物を観察する。
- ③バディと協力して、川で安全に活動する姿勢を身につける。

## ■適した場所

- ①水深が児童の膝下程度の浅瀬
- ②川底に石がたくさんある場所



写真1

●バディと協力しながら、箱メガネを使って水中を観察する児童

## ■すすめ方

- ①二人一組のバディを組む。
- ②活動可能範囲を確認する(上流及び下流に目印を定める)。
- ③川の中での歩き方(小股ですり足)を確認する。
- ④箱メガネ、網を持って川の中に入る。
- ⑤箱メガネで水中(川底)を観察しながら、生き物を見つけたら網で採取する(写真1)。
- ⑥川底の石の裏も観察する。よく観察すると、小さな水生昆虫を見つけることができる(写真2)。
- ⑦採取した生き物は、箱メガネに入れて観察する。
- ⑧活動範囲の中心地点などに、生き物を集める大きなカゴを準備しておき、採取した生き物を集めて全体で観察することもできる。



写真2

●川底の石の裏につく、水生昆虫を観察する児童

## ■使用する道具

箱メガネ・網(児童2名に1個程度)、観察ケース(全体で10個程度)、カゴ網(全体で1個)  
バット(全体で4~5個)、上流と下流の目印(例:赤い旗など)

## ■実施上の注意点

- ①道具を流さないようにする。
- ②夢中になり過ぎて活動範囲を超えたり、バディとはぐれないようにする。
- ③大きな石の上に登ったり、走って転倒しないようにする。
- ④先のとがったゴミや流下物で怪我をしないようにする。

## ■その他

### 1. 魚とりのコツ

- ①下流から上流に静かに歩く。
- ②箱メガネでのぞきながら、川底の石をゆっくりとめくり、石の下に隠れている魚を探す。
- ③魚が見つかったら、下流側からそっと網をさし、上流側から足で追い立てて、網の中に魚を追い込む。バディで、網役、追い込み役に分かれて行ってもよい。
- ④クラス全体で協力して、網を持って一列に並び、上流側から一斉に歩いて網に魚を追い込む方法でも採取できる(写真3・4・5)。



写真3

●網を持って一列に並び(右側)、追い込み担当も一列に並ぶ(左側)。



写真4

●上流側から一斉に網に向かって歩き、川底の魚を網に追い込む。



写真5

●川から網をあげ、魚やその他の生き物が網に入っていないか確認する。

### 2. 生き物への配慮

- ①川の中の生き物は、水温の上昇と水中の酸素不足に弱いので、観察ケースやカゴは川の中につけ、なるべく川の中と同じ状況になるように工夫する(写真6)。
- ②児童の怪我の予防と生き物保護のため、活動中は軍手を着用する。



写真6

●採取した生き物を集めておく網のカゴ、水温の管理が容易に出来る。

